

(参考様式第1-6号) 記載例
生産記録
(有機農業(化学肥料及び化学合成農薬を使用しない農業)の取組)

生産記録については様式を定めていませんが、参考様式として農業者団体が市町村に実施状況報告を提出するにあたり最低限必要な項目をまとめたものです。
※ 生産記録については、生産過程等において使用した肥料及び農薬、導入した技術など要件に即して対象活動を実施したことが確認できれば、「有機JASの認定書の写し又は認証機関に提出した書類」や「都道府県等の特別栽培農産物等の認定書の写し又は認定機関に提出した書類」を提出することで生産記録に代えることができますが、記載内容によっては追加で書類の提出を求めたり、必要に応じて内容の確認を行うことがありますので、都道府県や市町村の指示に従ってください。

組織名	環境営農組合
氏 名	農林 太郎

- ・ 複数ほ場について申請する場合は、交付金の交付金額の算定の基となるほ場面積がわかる書類と突き合わせられるように、通し番号等によって整理してください。
- ・ 「収穫予定時期」欄には年月日だけでなく、〇月上旬などの時期を記載することも可能です。

1 農場管理
(1)ほ場

ほ場名	所在地	面積(a)	作物名	区分 (開始時期)	緩衝帯設置 の有無	水管理実施 の有無 (水稲のみ)	収穫 予定時期
ほ場①	〇〇市〇〇町〇—〇—〇	20	ほうれん草	有機 (H12.4)	有	—	〇月上旬
ほ場②	〇〇市〇〇町□	500	米	有機 (H27.5)	無	有	〇月上旬
ほ場③	〇〇市〇〇町△—△	300	米	転換期間中 (R1.5)	無	有	〇月中旬

- (注1) ほ場1筆ごとの状態が把握できる地図を添付すること。
- (注2) 同一ほ場であっても、使用資材等の管理が異なるほ場は個別に記載すること。その場合、所在地はすべて同じ記載とすることができる。
- (注3) 区分には「有機」又は「転換期間中」と記載する。

- ・「製造者名等」の欄に、購入資材の場合は製造者名等を、自給資材の場合は「自給」と記入してください。
- ・自家製造のたい肥等の場合、原材料を全て記入してください。

- ・「使用時期」欄には年月日だけでなく、〇月上旬などの時期を記載することも可能です。
- ・作業を実施した時期に幅がある場合は、「〇月〇日～〇日」や「〇月上旬～〇月中旬」と記入してください。
- ・見込みで報告する場合は目安となる年月日の後に「(見込)」と記入してください。
- ・複数ほ場について作成する場合、「備考」欄に堆肥、肥料、土壌改良資材を使用したほ場番号を記入してください。

(2) 使用肥料及び土壌改良資材

資材等の名称		製造者名等	使用目的	使用時期	備考
① 堆肥		(堆肥の原材料)			
牛ふん堆肥	稲わら、牛ふん	自給		令和〇年〇月上旬	ほ場②、③
② 肥料					
有機〇〇		〇〇肥料(株)		令和〇年〇月上旬	ほ場①
③ 土壌改良資材					
〇〇		〇〇農材(株)	PHの調整に使用	令和〇年〇月上旬	ほ場①

- ・エコファーマーの導入指針等に定められた土づくり技術のうち、実際に導入した技術をチェックしてください。
その際、内容や実施時期等についても記入してください。

- ・有機農産物の日本農林規格別表1、2に掲げる資材のうち、目的を限定してその使用が認められている資材については、「使用目的」欄にその使用目的を記入してください。
(令和2年度環境保全型農業直接支払交付金 取組の手引き8～10頁参照)
(例) 使用資材が乳酸の場合 育苗用土の等のpH調整に使用 等

(3) 土づくり技術

■ 堆肥等有機質資材施用技術

□ 緑肥作物利用技術(緑肥作物の種類:

) (実施時期:)

□ 都道府県が定めた技術(内容:

) (実施時期:)

(4)使用農薬

・ 使用肥料と同様の記載方法です。

農薬名（剤型等、商品名）	製造者名等	使用目的	使用時期	備考
〇〇乳剤(ほうれんそう)	〇〇農薬(株)	〇〇のため	令和〇年〇月〇日	ほ場①

(5)有害動植物の防除

- 耕種の防除(適地適作の作物や品種の選定、健全種苗の利用、耕起・中耕、被覆植物の利用等)
- 物理的防除(種子の比重選、光線の遮断、誘蛾灯・防蛾灯の利用、防虫用ネット・粘着トラップの利用、人力又は機械的な除草等)
- 生物的防除(拮抗微生物の利用、捕食性及び寄生性天敵の利用等)

・ 有害動植物の防除のために行ったものとして、当てはまるものに■または✓をつけてください。(複数選択可)

・ 「種苗の種類」の欄に、有機種苗の場合は「有機」と、一般種苗の場合は「非有機(農薬使用)」と記入してください。

・ 一般種苗の場合、使用した農薬名と、有機種苗が入手困難であった理由を後ろに記入してください。

・ 複数ほ場について作成する場合、「備考」欄に種・苗を使用したほ場番号を記入してください。

(6)使用種苗

作物名	種・苗の別	入手方法	購入先	種苗の種類	使用農薬名	有機種苗の入手困難な理由	備考
米	種	自家採種		有機			ほ場②、③
ほうれん草	種	購入	〇〇種苗(株)	非有機(農薬使用)	チラウム	品種の維持更新	ほ場①

・ 「入手方法」の欄に、購入種苗の場合は「購入」、自家採種の場合は「自家採種」と記入してください。

・ 購入した種苗の場合、購入先を記入してください。

(7)周辺から使用禁止資材が飛来又は流入しないような措置

①緩衝帯の設置

具体的な措置内容	近隣ほ場との隔離距離(m)	備考
緩衝帯を設置した。	5	ほ場②、③
近隣に農場が存在しないため、特別な措置は必要ない。	0	ほ場①
道路等により近隣ほ場と区分されている。	0	
境界域で別の作物を栽培している。	0	

②水管理(水稻取組ほ場のみ記載)

具体的な措置内容	備考
水口に活性炭を設置した。	ほ場②
浄化池を設置した。	ほ場②
用排水兼用水田ではないため、特段な措置は必要ない。	ほ場③

③機械・器具

機械・器具名	有機専用 慣行併用	個人使用 共同使用	保管場所	洗浄方法	備考
田植機	有機専用	個人	納屋	—	ほ場②、③
コンバイン	慣行併用	共同	共同保管庫	水洗	ほ場②
耕うん機	慣行併用	共同	共同保管庫	使用前に水洗	ほ場①

・慣行併用の機械の場合、「洗浄方法」の欄に「水洗」等を記入してください。

(8)組換えDNA技術の利用

■ 組換えDNA技術を利用していない。

・「遺伝子組換え技術を利用していない」にチェックをしてください。

(9)放射線照射

■ 放射線照射を行わない。

・「放射線照射を行わない」にチェックをしてください。

2 保管書類

□主作物の出荷・販売伝票(10a未満の取組の場合)
(注)保管してある書類名の□に、■または✓を入れること。

3 誓約

■ 有機農業を継続的に実施します。

・「有機農業を継続的に実施します」にチェックをしてください。

※ 同一ほ場における転換期間中の支援は1度(2年又は3年)となる。転換期間は多年生の植物から収穫される農産物にあっては3年間、それ以外の農産物にあっては2年間となる。
コーデックスガイドラインにおいて、「有機農産物生産への転換中の区域は、転換済みの区域と同様に、有機農法と慣行農法を交互に行ってはならない(交互に切り替えてはならない)。』と規定されている。

(別添)

ほ場地図

氏名: 農林 太郎

100.0m

用排水路

慣行水田

活性炭の設置

慣行水田

有機ほ場② 5.0m

30.0m

有機ほ場① 50.0m

緩衝帯

農道

慣行水田

慣行水田

10.0m

用排水路

公道

ほ場の規模やそれぞれの位置、近隣の土地の使用状況などに加えて、隣接地からの汚染の危険性の有無が確認できるように記載してください。

作成時のポイント:

- ①方角を入れ、ほ場番号を明確にする。
- ②ほ場の大きさ、畦畔・道路の幅、水田の場合は取水・排水口を書く。
- ③隣接地との距離、隣接地の内容を書く(慣行か有機か等)。